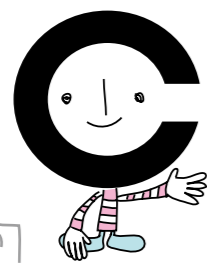


施設リスト



私たちは眼科専門医として、レーシックを行う施設として、患者様の生涯の目の健康と向き合っていくことを責務と考えています。



安心の条件

- ① お互いが信頼し、紹介し合える医師またはクリニックである
- ② 院長および執刀医が「眼科専門医」である
- ③ 院長および執刀医が、角膜手術、眼内レンズの専門的な勉強、トレーニングをしている
- ④ 院長および執刀医が、レーシック手術だけでなく眼科診療一般の知識を持ち対応ができる（感染症などの手術における基本的な対策が当然なされている）
- ⑤ 術前検査と適応の見極め、手術に至るまでのプロセスがきちんとしている
- ⑥ 術後のフォローアップ（定期健診や合併症の治療）を何度でもきちんとして行う（患者の目の状態につき、最後まで、生涯におけるフォローを行う）
- ⑦ 原則として、厚生労働省が認可したレーザーをはじめとする医療機器を使用している
- ⑧ 日本眼科学会によるエキシマレーザー屈折矯正手術のガイドラインを順守している



安心LASIK
NETWORK

安心♥LASIK NEWS LETTER 2012.07 Vol.06

—大学病院と眼科専門医のレーシック—

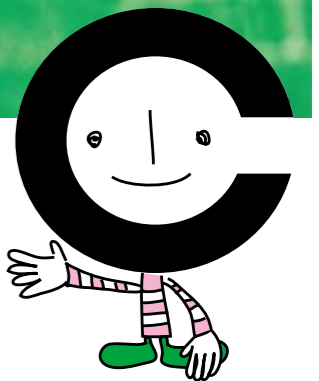
<http://www.safety-lasik.net/>

安心レーシック

ニュースレター

LASIK WORK

眼科の先生も
受けているレーシック。
安心と安全には
理由があります。



Topics 術後のドライアイ

「安心 LASIK ネットワークの施設はどこが違うのですか?」というご質問をいただくことがあります。安心の条件がネットワークの条件であることをホームページに掲載していますが、その違いについて、このレターで少し詳しくご紹介していきたく思います。

昨今、ネットなどで、レーシックを受けたあとの不調についての書き込みを見かけることがあります。よく内容を見てみると、ドライアイや過矯正などの術前術後

の十分なコミュニケーションとケアで対処できるものがほとんどと思われます。これらのネット上の情報から「レーシックはやはり危険」と判断されるのは、レーシックに取り組んでいる私たち眼科専門医としては大変残念です。レーシックは、必要な人にとって価値のある治療です。患者様によく治療についてご理解いただき、快適な生活を実現して欲しいと心より願います。今号では、ドライアイとそのケアについて解説します。

Topics 術後のドライアイについて

手術後しばらく注意が必要ですが、
1か月～2か月ほどで改善します。

レーシックや白内障の手術後に、一時的にドライアイになることがあります。角膜を着ることで、角膜の神経が切断されるためと考えられています。多くは1か月から2か月ほどで改善します。まれに半年ほどかかる場合もみられますが、まったくドライアイにならない方もいらっしゃいます。

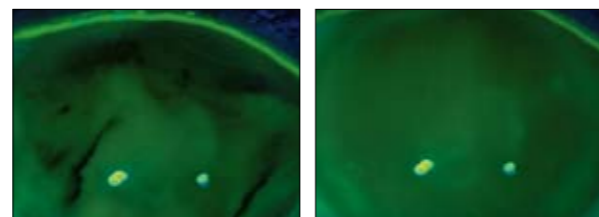
さて、そのドライアイですが、ちょっと目が乾くだけ…と軽く考えられてしまいがちです。でも、涙の不足、あるいは涙が目の表面にとどまらないことで、実は多くの問題が生じます。とくに、視力への影響は、近年認められてきたものです。なんとなく目がかすむ。見づらい。ものがだぶって見える。こんな症状がドライアイにより引き起こされます。また、涙の不足で角膜の傷の修復も遅れてしまいます。

手術翌日と、一週間後の診察では、角膜の傷の治り具合から、涙の状態をしっかりと診察します。ドライアイが認められる場合は、保湿成分のヒアルロン酸が含まれた点眼や、状態によっては涙の分泌を促すジクアス®などの目薬の点眼、涙点をふさぐプラグ等の治療を行います。

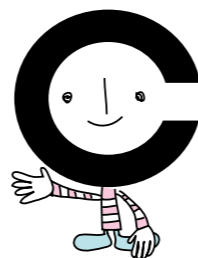
きちんとケアをすれば、角膜の神経が再生してくると同時にドライアイも改善していきます。しかし放置したままですと、いつまでたってもドライアイが治らず、レーシック自体は成功していても、よく見えないう、不調…、という結果になってしまいます。それから治療を

行なっても改善できませんが、その間のストレスは不要なものですし、また、万一、炎症などがおきてしまった場合は、適切な点眼治療を行う必要があります。安心 LASIK ネットワークの医師は皆、ドライアイの治療に詳しい角膜を専門とする医師です。術後のケアをしっかりと行っています。

■ドライアイ治療の1例



目の表面に傷はないが、目の不快感や見え方の低下などの自覚症状があるタイプのドライアイに対してジクアス®点眼を行った例。治療前の黒く見えるところは、涙が乾いている部分。点眼1か月後には、涙がきれいに目の表面を覆っています。



涙点をふさぐ治療について

涙は、まぶたの目尻のほうから分泌されて、まばたきで眼の表面に運ばれ、目頭にある上下の小さな穴(涙点)から鼻腔へと排出されていきます。涙が不足している場合は、この排出口にあたる涙点をふさいで涙をためる治療があります。

「涙点をふさぐ」といってもそんなに大変な施術ではありません。いくつかの方法がありますが、代表的なものが「涙点プラグ」です。写真のようなプラグ(シャンパンの栓のような形です)を、涙点に装着します。痛みはありませんが、ご不安な方には点眼麻酔をして行うこともできます。プラグは取り外すこともできますが、逆に知らない間に脱落してしまう場合もあります。経過観察をしっかりと行います。

また、コラーゲンを涙点に挿入して涙点をふさぐ方法もあります。ゲル状のコラーゲンが体温で固まり、涙点をふさぎます。

いずれも、装着と同時に涙がたまりますので、非常に早い改善が期待できます。



涙点をふさぐプラグの一例

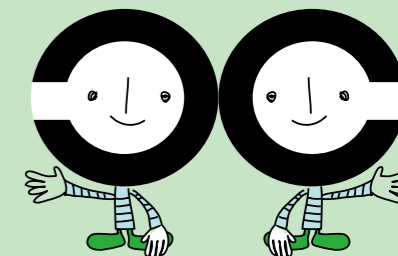
プラグを挿入した涙点

レーシックは、手術後の一年、とくに半年間は、こうした術後の経過観察とケアが必要です。大切な目の健康のために、レーシックをお考えの方はぜひ安心 LASIK ネットワークの施設にお問い合わせください。

レーシックを受ける前に下記10項目を確認しましょう。

10のチェックリスト!

- 視能訓練士などの眼科検査スタッフが十分な検査を行い、その後、眼科専門医による診察を受け、検査内容と結果について医師からきちんと説明を受けましたか?
- 高度近視の人や、角膜の厚さが薄い人の場合、レーシック以外の術式も選択肢として検討しましたか?
- 術前検査とカウンセリングに十分な時間をもちましたか? レーシックの治療について、十分理解できましたか?
- 年齢やライフスタイル、手術の目的などを考慮した目標視力の設定を、医師と十分に話し合う時間をもちましたか?
- 手術の合併症やデメリットに対する説明を受けましたか?
- はじめての適応検査の後、手術までに一定の日数を空けていますか?
- 手術後、短期のみならず長期にわたる定期検査を行う予定がありますか?
- 執刀医を把握できる診察でしたか? 担当医師、執刀医は「眼科専門医」でしたか?
- あなたが不安に思うことを、きちんと質問できましたか? 医師はそれにきちんと説明してくれましたか?
- 術後に問題があった場合には、最後まできちんと治療をすることが期待できる施設ですか?



Column

正しい目薬の使い方について

「目薬をさそう」と思うのは、目に何らかの不快感やトラブルがある時です。市販の目薬も正しく使用すれば有効に活用できます。ただし、ほとんどは防腐剤が含まれていますので、1日の点眼回数(多くは6回程度)を守りましょう。多用すると、防腐剤やその他の成分で症状を悪化させてしまうこともあります。また、目薬は自分

の大切な涙を洗い流してしまうことにもなりますので、頻繁に点眼するのは逆効果です。目の不調がある場合は眼科を受診しましょう。

目薬のボトルの口は清潔に保つよう、肌や手に触れないようにします。目薬には開封後の使用期限がありません。古い目薬は処分しましょう。